

献血推進に係る新たな中期目標について ～献血推進 2014～（案）

平成 22 年 11 月 9 日

1. 目的

少子高齢社会における血液の安定した供給体制を構築するため、平成 17 年度から 5 年間実施した「献血構造改革」の結果及び日本赤十字社が実施した血液需給将来推計シミュレーションの結果等を踏まえ、平成 26 年（2014 年）度までの達成目標を設定し、献血推進を行う。[献血推進 2014]

2. 平成 26 年（2014 年）度までの達成目標

項目	目標	H21 年度
若年層の献血者数の増加	10 代（注 1）の献血率を 6.4%まで増加させる。	6.0%
	20 代の献血率を 8.4%まで増加させる。	7.8%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力頂ける企業・団体を 50,000 社まで増加させる。	43,193 社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間 120 万人まで増加させる。	984,766 人

（注 1）10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳を指す。

3. 重点的な取組みについて

上記の目標を達成するため、以下に掲げる事項に重点的に取り組む。

① 受血者の顔が見える取組み

献血血液の医療現場での使用状況について、国民が十分承知しているとは言い難い状況にあり、また、その理解を進めることが、献血意識を高めるという調査報告がある。献血推進にあたっては、受血者の顔が見える取組を一層強化する。

② 10 代への働きかけ

平成 23 年 4 月 1 日の採血基準の改定及び平成 21 年 7 月改訂高等学校学習指導要領解説保健体育編における「献血」に関する記載を踏まえ、10 代に対する献血への理解を深める取組みを強化する。また、200ml 献血のあり方について、医療機関における使用実態等を踏まえ、検討を進める。